

(別紙5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	2008年 9月 16日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ～ 終了 15時 00分

訪問先事業所名 (都道府県)	ながみの家 <hr style="width: 80%; margin: 0 auto;"/> 福島県
-------------------	--

評価調査員の氏名	氏名 <u>熊谷まゆみ</u>
	氏名 <u>大野恒夫</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>遠藤淳二</u>
ヒアリングを行った職員数 (2)人	

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0770101749
法人名	福島中央市民医療生活共同組合
事業所名	なごみの家
所在地	福島県福島市北沢又字下台前1-2 (電話) 024-555-102
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	福島県会津若松市東千石1丁目2-13
訪問調査日	平成20年9月16日

【情報提供票より】 (20年8月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 7 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
常勤	17 人, 非常勤 人, 常勤換算

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要 (8 月 29 日現在)

利用者人数	名	男性	1 名	女性	17 名	
要介護1	1	要介護2	4			
要介護3	5	要介護4	8			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	82.8 歳	最低	72 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上松川診療所 須川診療所 渡辺歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

隣に小学校や幼稚園はあるものの新しい住宅街の一角に位置し、平屋木造づくりのホームは住宅街に溶け込んでいる。ホーム内は落ち着いた色調で家庭的な調度品が備え付けられていて「我が家」を連想させる。利用者は穏やかに落ち着いた生活をしている様子だった。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の課題であった「重度化や終末期に向けた方針の共有」について話し合いがされ指針が作成されていた。
重点項目②	評価の意義について話し合い自己評価にスタッフ全員が取り組んでいた。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5)
重点項目③	2ヶ月に1回開催しホームの活動の報告をし意見交換をしている。自己評価や外部評価についても議題にして話し合っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
重点項目④	家族の面会時や運営推進会議などでも意見を聞く機会はあるがあまり意見や要望は出されない。
	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	身近な町内会に入会し、なごみ新聞が隣組で回覧され地域との関係ができてきた。芋煮会などの行事への参加よびかけも計画している。

2. 調査報告書

氏名 熊谷まゆみ

同行調査員氏名 大野恒夫

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割は理解しているがどのような方法で役割を果たしていくかについての話し合いは充分ではない。		グループホームが地域で果たす具体的な役割について話し合い、地域密着型サービスとしての理念づくりに活かして欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に誰でも見えるように掲げられているがスタッフで共有し日々の実践に生かすまでにはいたっていない。		理念と実践を結びつけるためにスタッフの対応など例に取り話し合っ欲しい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今までは少しはなれた町内会に入会していたが、隣組の編成があり今年からホーム周辺の町内会に入会した。今後のお付き合いが期待できる。		行事への参加よびかけなど積極的に行い地域との交流を深めて欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し自己評価はスタッフ全員で行い、意識向上につなげている。外部評価の改善項目についても話し合い改善につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的で開催している。自己評価や外部評価の結果についても報告し話し合っている。		町内会の役員も運営推進会議メンバーになっていただけるようお願いされたい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	なごみ新聞で2ヶ月に1回報告している。家族の面会時や電話で状況報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で意見や要望があればカルテに書きこみスタッフで共有しケアに生かしている。緊急を要する場合は管理者とリーダーで話し合い改善に生かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフのストレスやスキルアップを考え異動している。利用者の立場からの異動ではない。		利用者とのなじみの関係をつくりつつストレス解消やスキルアップができるしくみを考えて欲しい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修計画に沿った研修会やグループホームのスタッフとして必要な研修会に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し学習会や事例検討会などに参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とともに暮らすパートナーとして理解はしているが、業務優先になり見守るべきところを手を出してしまう場合もある。		常に支えあう関係であることを意識してケアをして欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の研修に参加しているがまだ利用には至っていない。日々のかかわりの中で得た情報はカルテに書き込みスタッフで共有している。		センター方式の活用も考えて欲しい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人との関わりでの気づきや家族との話し合いで要望などを聞き、職員会議で話し合いプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に評価し、家族の意見を取り入れながら担当者と計画作成者とで話し合いながら見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意志でかかりつけ医を決定している。日常はホーム側の情報提供を受け家族対応の受診であるが、状況に応じてはスタッフがかわったりし柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営推進会議での話し合いをもとに「看取り介護に関する指針」と「重度化・看取り介護に関する取り組み」をつくった。		具体的に対応できるようスタッフで話し合っ て欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の声掛けにはプライドを傷つけないような対応をしていた。カルテなどの記録物の管理に注意は払われているが徹底はしていない。		個人情報に関するものの保管は目に触れないよう配慮して欲しい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事や睡眠、入浴などの生活の流れは利用者のペースで行なうようにしている。が時には業務優先になり利用者のやりたいことが後まわしになることもある。		常に利用者の生活の場であることを意識して欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材購入、食事の準備、配膳、後片付けなど利用者とスタッフと利用者が一緒に行っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる環境を整えてあり、身体の状態に合わせて入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	折り紙や歌、外出など利用者それぞれの楽しみを支援している。季節に合わせて花見やドライブなど行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	食材の購入や散歩など日常的に戸外に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出しやすい利用者には気を配りながら、玄関も居室も鍵をかけないケアを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を実践しているが、全員の避難や夜間想定は行なわれていない。		全員が避難する方法や夜間想定も考えて欲しい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量のチェックを行い利用者一人ひとり栄養のバランスや水分量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が飾られ、家具や備品も家庭的なものが備えつけられていた。お風呂やトイレも利用しやすい設備であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や、家から持ち込んだ箆笥やテレビ家具などが置かれ個性が感じられた。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム なごみの家

記入担当者名 管理者 遠藤 淳二

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。